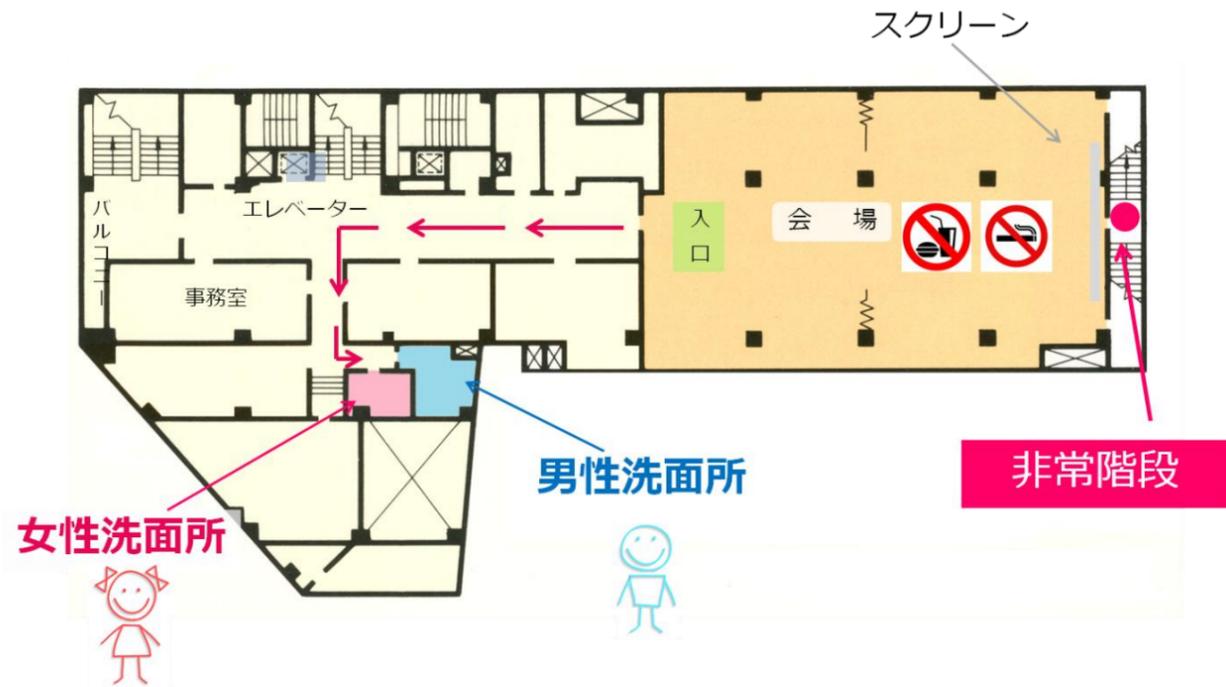


会場案内



1. 当会場は禁煙です。上映休憩中を問わず、おタバコはお控えください。また会場内での飲食はお控えください。
2. 作品上映中は、場内でのカメラ(携帯電話含む)・ビデオなどによる撮影・録画・録音は固くお断りいたします。
3. 周りの方の御迷惑になるような行為につきましては、ご退場頂くことがございます。
4. 上映中やむを得ず席をお立ちになる場合には周りの方に充分ご配慮ください。

主催団体について

1. 患医ねっと <http://www.kan-i.net/>



「患医ねっと」が取り組むべき姿

患者・医療者・企業者は、医療というエン（円・縁）の中で、病気と向かい合います
患医ねっとは、患者、医療者、医療企業を、縁でつなぎ、円をつくります。

いずれの立場が手を取り合っていくことが、よりよい医療の実現には不可欠と考えます。

- ◇患者：医療というエンの中で、主体的に医療に取り組む
- ◇医療者：医療というエンの中で、専門性を持ち合わせつつ、全人的医療を提供する
- ◇企業者：医療というエンの中で、医療者としての自覚を持ち、医療に取り組む

2. 「待合室から医療を変える」プロジェクト <http://machipuro.jimdo.com>

病院の待合室の時間と空間の有効利用をはかり、日本が抱える医療分野における問題点についての啓蒙や情報発信を行い、医療に対する施策を考える有志の団体です。



映画“happy”上映会



貴方の幸せを
見つけてくだ
さい

しあわせを探すあなたへ - 病だから happy -

2014年10月25日（土）14時
文京区民センター 2A会議室

主催：患医ねっと／待合室から医療を変えようプロジェクト

ご参加の皆様へ

当イベントへのご参加いただき誠にありがとうございます。

○当イベントでは、場内の風景やメッセージを撮影し、ホームページ等に掲載することがありますのでご了承ください。（氏名は記載いたしません。掲載期間未定ですが、写真掲載を望まない方はお申し出ください。）

○写真の掲載は、「待合室から医療を変えよう」プロジェクトの活動に関連して使用いたします。

「待合室から医療を変えよう」プロジェクト <http://machipuro.jimdo.com/>



プログラム

1	M ovie	14:00	映画上映 “happy” 幸せをさがして
		15:25	
休憩		10分	15:25~15:35
2	W orkshop	15:35	ワークショップ マインドフルネス ドナー経験のある映画プロデューサー 清水氏と考える
		17:05	
休憩		10分	17:05~17:15
3	T alk	17:15	トークショー 「病氣と患者そして幸せ」
		17:45	
懇親会 (自由参加)			17:45~



トークショー・スピーカー



清水ハン栄治氏
本映画プロデューサー

メディアプロデューサー。1970年、横浜生まれ。マイアミ大学にてMBA取得。サン・マイクロシステムズ、リクルート社にて事業開発を経て渡米。『happy』のメインプロデューサーとしてロコ・ベリッチ監督と共に6年の歳月をかけ、世界中のハピネスを研究する。同作品はこれまでに62カ国で上映。映画祭や心理学学会で12以上の賞を受賞し、アメリカ、カナダ、オーストラリアのiTunesでNo.1のドキュメンタリーに輝いている。父親への生体肝移植を経験している。



河内文雄氏
「待合室から医療を変えよう」プロジェクト代表

医療法人社団 以仁会理事長。「待合室から医療を変えよう」「院長の右腕」各プロジェクト代表。大学病院勤務後、稲毛市にクリニックを開設、医師として地域医療の現場に立っている。その傍ら医療崩壊への危機感に対し、「誰かが何かしてくれるのを待っていていいのか」との思いにつき動かされ、待合室を「ただ待たされるだけの場から、医師や患者、住民、そして様々な情報が交差する場へ」サロンや栄養指導、健康教育の場などに活用するアイデアの具体化へ向け邁進中。



古賀真美氏
NPO法人
がんサーネットジャパン

NPO法人 がんサーネットジャパン プロジェクトマネージャー。CNJ認定がん情報ナビゲーター。JACC認定臨床心理カウンセラー。2002年に急性リンパ性白血病を発症した弟の末梢血管細胞末ドナーとなった経験を機に、血液がん患者・家族、骨髄ドナーの支援を開始。白血病・リンパ腫・骨髄腫の患者、家族、医療経験者が、それぞれの経験を活かしながら患者相談について勉強する会「Patient Advocate Liaison」主宰。がんについてのさまざまな情報発信を行うとともに、社会の中でがんに取り組むための問題提起を行っている。



映画 “happy” について

映画の背景

アメリカでは1981年から幸福度研究が始まり、幸福度を教える講座はハーバード大学で人気となりました。過去50年でアメリカ経済は大きく飛躍し、平均的なアメリカ人の収入は倍増しましたが、幸福度はある時点で頭打ちとなっています。お金持ちになっても、幸せはさほど増えないことが分かってきたのです。では何が私たちに幸福感を与えるのでしょうか？（映画で世界の人々とともに東京・沖縄等の人びとをとらえています）

作品プロフィール

2012年/76分/アメリカ/Color HD
監督 / 撮影監督 / プロデューサー：ロコ・ベリッチ
メインプロデューサー / 第2ユニット監督 / 撮影：清水 ハン 栄治
プロデューサー：フランシス・リード 製作総指揮：トム・シャドヤック

受賞歴

- ・メキシコ国際映画祭 — 最優秀ドキュメンタリー作品賞
- ・マウイ映画祭 — 最優秀ドキュメンタリー作品賞
- ・コスタリカ国際映画祭 — 最優秀作品賞
- ・アリゾナ国際映画祭 — 最優秀観客賞
- ・アムステルダム映画祭 — 最優秀批評作品賞
- ・リンコン・プエルトリコ国際映画祭 — 最優秀ドキュメンタリー作品賞 等多数

賞賛の声(主な著名人)

- 茂木健一郎氏 (脳-科学者)
- 小林正弥氏 (マイケル・サンデル「ハーバード 白熱教室」解説者)
- 前野隆司氏 (慶応義塾大学『幸せのメカニズム ~実践・幸福学入門』)

会場案内



1. 当会場は禁煙です。上映休憩中を問わず、おタバコはお控えください。また会場内での飲食はお控えください。
2. 作品上映中は、場内でのカメラ(携帯電話含む)・ビデオなどによる撮影・録画・録音は固くお断りいたします。
3. 周りの方の御迷惑になるような行為につきましては、ご退場頂くことがございます。
4. 上映中やむを得ず席をお立ちになる場合には周りの方に充分ご配慮ください。

主催団体について

1. 患医ねっと <http://www.kan-i.net/>



「患医ねっと」が取り組むべき姿

患者・医療者・企業者は、医療というエン（円・縁）の中で、病気と向かい合います
患医ねっとは、患者、医療者、医薬企業を、縁でつなぎ、円をつくります。

いずれの立場が手を取り合っていくことが、よりよい医療の実現には不可欠と考えます。

- ◇患者：医療というエンの中で、主体的に医療に取り組む
- ◇医療者：医療というエンの中で、専門性を持ち合わせつつ、全人的医療を提供する
- ◇企業者：医療というエンの中で、医療者としての自覚を持ち、医療に取り組む

2. 「待合室から医療を変える」プロジェクト <http://machipuro.jimdo.com>

病院の待合室の時間と空間の有効利用をはかり、日本が抱える医療分野における問題点についての啓蒙や情報発信を行い、医療に対する施策を考える有志の団体です。



映画“happy”上映会



しあわせを探すあなたへ - 病だから happy -

2014年10月25日（土）14時

文京区民センター 2A会議室

主催：患医ねっと／待合室から医療を変えようプロジェクト

ご参加の皆様へ

当イベントへのご参加いただき誠にありがとうございます。

○当イベントでは、場内の風景やメッセージを撮影し、ホームページ等に掲載することがありますのでご了承ください。（氏名は記載いたしません。掲載期間未定ですが、写真掲載を望まない方はお申し出ください。）

○写真の掲載は、「待合室から医療を変えよう」プロジェクトの活動に関連して使用いたします。

「待合室から医療を変えよう」プロジェクト <http://machipuro.jimdo.com/>